

まちかど アルバム



「砂の美術館」が目標の30万人突破！

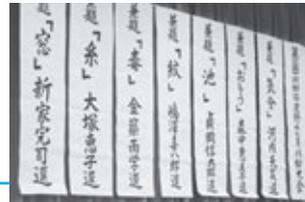
鳥取砂丘

砂の美術館の来館者が12月7日（日）、目標の30万人を突破しました。30万人目となったのは、家族と一緒に訪れた米子市の山根勉さん。記念品として市長らから花束や松葉ガニなどが贈呈されました。砂の美術館は1月3日まで。4月18日には、いよいよ「2009鳥取・因幡の祭典」のオープニングイベント「世界砂像フェスティバル」が開幕します。

川柳で交流

鹿野町

鹿野町の川柳愛好家グループ「川柳塔鹿野みか月」が主催する川柳大会が11月30日（日）、国民宿舎・山紫苑で開催されました。28回目となる今大会には、県内外から150人が参加。出題された「窓」や「糸」、「おもう」など7つの兼題に対し、参加者はじっと考え込んだり、友達と相談したり…。上位入賞をめざして、自信の句を投句していました。



統合40周年を祝う会

用瀬小学校

用瀬町内にあった3つの小学校が昭和44年に統合されて今年で40周年を迎えることから、記念の行事が12月5日（金）、用瀬小学校で行われました。朗読や合奏などの発表後、地元で「もちっ子」と呼ばれる全校児童178人が、「学びの丘」で培った持ち前の明るさで、元気いっぱい校歌を披露。会場の保護者らから盛大な拍手が送られました。

心打つミュージックベルの響き

佐治町

佐治ふれあい作業所は、ミュージックベルの演奏に取り組んでいます。その澄んだ音色に出会って5年、メンバーは指導員も含めて6人です。楽しみながら活動していて、最近ではさまざまなイベントで演奏する機会が増えました。12月6日（土）のさじアストロパーク・クリスマスコンサートでも「見上げてごらん夜の星を」など息の合った演奏を披露したメンバーたち。ますますの活躍が期待されます。





リトミック体験

鳥取市文化センター

「リトミック」とは、聞く、歌う、演奏するといった音楽活動を体を動かす体験を通じて感じ取っていく教育法です。このリトミックの体験会が12月6日（土）、鳥取市文化センターで開催されました。講師は、鳥取第一幼稚園で音楽教諭を務める田村尚文^{たむら なるふみ}さん。参加した子どもたちは、田村さんがキーボードで作出すリズムに合わせ、手をたたいたり歩いたり…。音楽を体全体で楽しみました。

国府の魅力を満喫！

国府町

「2009 鳥取・因幡の祭典」の開幕まで残り半年を切った11月15日（土）、県外客を迎えるにあたって、まずは市民のみなさんに国府町の魅力を知っていただくとう「魅力満載 万葉のふるさと国府—史跡と紅葉を探索—」と題したイベントが開催されました。参加した40人は、いなば国府ガイドクラブの案内で大伴家持歌碑や宇倍神社など国府町内の史跡や名所を探索。「ガイドさんの説明を聞くと2倍、3倍に面白い」と楽しそうに話していました。



ちっちゃな防火鼓笛隊

福部幼稚園

11月14日（金）、「親と子の防火の集い」が福部幼稚園で行われました。園児たちは「僕たち、私たちは絶対火遊びをしません」「お父さん、お母さん、火事には気を付けましょう」と防火の誓いを読み上げた後、保護者や岩美消防署員の見守り中、そろいの衣装で太鼓を叩いたり鍵盤ハーモニカを吹いたりして鼓笛演奏を披露。参加者は、かわいい子どもたちの姿に防火の誓いを新たにしていました。

たなかかんろう 田中寒楼の魅力を語る

中央図書館

河原町出身の俳歌人、田中寒楼（明治10年～昭和45年）の魅力を語る講演会が11月21日（金）、中央図書館で行われました。講師は、画家の山本恵三^{やまもと けいぞう}さん。寒楼の晩年に親交が深かったという山本さんは、作品とともにその豪放磊落な人柄や暮らしぶりを紹介しました。「漂白の俳歌人」とも呼ばれ、数々のエピソードを残している寒楼。小学校の校長時代、朝礼で持っていた茶碗をぱっと手放し「落としゃあ、めげる!」と一言で終えたというのは有名な話です。



鳥取港に「光る水族館」出現

みなと公園

鳥取港に隣接する「みなと公園」に、カニヤトビウオのイルミネーションが出現。園内に建つ灯台もライトアップされ、道行く人の目を楽しませています。「鳥取港イルミネーション水族館」と題されたこのイベントは、NPO 法人鳥取・賀露みなとオアシスが企画したもので、今回で3回目。年々電飾の数も増えています。ライトアップは1月4日（日）まで（17：00～22：00）。